広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	イタリア語における比喩表現〈特集 比喩表現〉
Author(s)	古浦, 敏生
Citation	広大言語 , 8 : 1 - 3
Issue Date	1968-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046285
Right	
Relation	

イタリア語における比喩表現

古　浦　敏　生

§1　序

比喩（similitudine）とは，一種の隠喩（traslato）であって，我々が，ある概念をよりはっきりと，また，より生き生きとしたものにするために，その概念を他のより一般的に認識された概念と比較するものである。だから，比喩は，観念連合（l'associazione di idee）と云う人間精神の生来の才に基ずいているのである。それ故，この観念連合は，空想力（fantasia）の中に起源を置いている。だから，この空想力が激烈で活発な作家であればある程，しばしば比喩は現れ，新鮮で大胆なものになるのである。

Gabrielli, A.: Dizionario Linguistico Moderno,「現代言語学辞典」1956, Verona は，比喩の条件として，次の3つを挙げている。

(1)　比喩は，自然発生的（spontaneo）でなければいけない。即ち，苦心して作られた不自然なものではいけないのである。

(2)　比喩は，釣合のとれたもの（misurato）であるべきである。

(3)　比喩は，空想力を増すのに都合のよいもの（conveniente）であるべきである。

§2　一般的な比喩

ここで，最も一般的な比喩の例を列挙してみよう。

chiaro come ① il ② sole 「太陽のように明るい」

pauroso come un coniglio 「兎のように臆病な」

sordo come una talpa 「もぐらのように耳が遠い」

noioso come una mosca 「蠅のようにうるさい」

bello come un dio 「神のように美しい」

brutto come un orco 「地獄の神のように醜い」

freddo come il marmo 「大理石のように冷たい」

leggero come una piuma 「羽のように軽い」

trasparente come il vetro 「ガラスのように透明な」

labile come il vento 「風のようにはかない」

bagnato come un pulcino 「ひよこのように当惑した」

forte come un toro 「雄牛のように強い」

fiorito come un giardino 「庭園のように花盛りの」

saltare come un grillo 「こうろぎのように跳ぶ」

segreto come una tomba 「墓石のようにひっそりした」

これらの比喩は，日常会話ではよく用いられるけれども，非常に高尚な独創性が要求される文語においては不適切であろう。だから，偉大な作家は，決してこのような使い古された比喩は用いない。ホメロスや古典ギリシア，ラテンの作家の驚嘆すべき比喩は云うに及ばないが，比喩を用いていない文学作品はないと云っても過言ではあるまい。

§3 ダンテ「神曲」における比喩

比較の関係が非常に詳細に描写されている場合の比喩は，comparazione と呼ばれる。ダンテ（1265～1321）は，この種のものを多く用いている。ここでは，1つだけその例を示そう。

Come le pecor·lle escon dal chiuso
　a una, a due, a tre, e l'altre stanno
　timidette atterrando l'occhio e 'l muso;
e ciò che fa la prima, e l'altre fanno,
　addossandosi a lei, s'ella s'arresta,
　semplici e quete, e lo 'mperché ③ non sanno;
sì vid'io muovere a venir la testa
　di quella mandra fortunata allotta,
　pudica in faccia e ne l'andare ④ onesta. (Purg. III, 79～87)

「ちようど羊が檻(おり)から一匹二匹三匹と出てきて，その他のものは目と口を下へ向け，恐れすくんで，考えなしに無言で，その理由もしらないで，先の者が止まれば他の者もひしめき合い，先の者がしたと同じことをするものだが，まさにそんなふうに幸福多い群の先頭の者が端正な容貌と優雅な足どりで進んでくるのを私は見たのである」（野上素一先生訳）。

この際，「～のように～である」と云う比喩は，「come ～ sì ～」によって表わされている。そして，「come ～」は6行に亘って詳細に描写されている。つまり，幸多い群（即ち，天国へ行ける可能性のある魂達の群）の動きを，檻から出る羊の群にたとえたのである。

§4　おわりに

上記のダンテの比喩は，錬りに錬って作られた格調高いものであろうが，やゝ廻りくどい，じれったい感じもする。これに反して，ホメロスが用いている ho d'ēie nykti eoikōs。⑤「彼（アポロン）は，夜の如く立去った」（イーリアス，I，47）という比喩は，短かいけれども，それだけ一層強く印象に残るものである。

(注)

①イタリア語で比喩表現を行う時には，come (Fr. comme＜lat. quomodo)「～のように」と云う小詞を使えばよい。また，come の代りに，a guisa di～「～のように」を用いてもよい。

②この come のうしろの il は男性定冠詞，un は男性不定冠詞，una は女性不定冠詞であるが，これらの用法に関しては，拙稿「イタリア語における冠詞研究(1) ── 比喩表現を中心として ──」広島大学文学部紀要，第25巻2号所収を参照されたい。

③lo'mperché (＝lo imperché)「理由」と云う語は，羊に対して用いられているが，魂に対しては il perché「理由」と云う語が用いられている (Purg.III,93). ダンテは，羊に対する言葉と魂に対する言葉とを使い分ける程の細かい心遣いをしている。

④allotta は，allora「その時」の意を示す副詞であって，Vid'io「私は見た」を修飾するものと思われる。

⑤ho は指示代名詞；d' は particle；ēie は eimi「行く」の imp.3,sg.；nykti は nyks「夜」の dat. sg.；eoikōs は eoika「～に似た」完了受動分詞の nom.sg.m.

Der N↑belunge Nôt の比喩表現

岡　崎　忠　弘

§1　はじめに

この小論の目的は Der N↑belunge Nôt の比喩表現の状況を把み，それについて若干の考察を加えることにある。

なお，テキストは Der N↑belunge Nôt (Im Insel-Verlag zu Leipz-